

血友病家庭治療の実態と問題点

神奈川県立こども医療センター 小児科部長 長尾 大

血友病家庭治療の実態と問題点を知る目的で、アンケート調査を行った。対象は、我が国における代表的血友病治療機関25施設であり、22施設より解答が得られた。この22施設の内11施設が家庭治療を実施中であった。1施設はかつて実施していたが現在は中止しており、2施設は将来とも行なう予定はなく、残りの8施設は、現在は行っていないが、将来行なう用意があると解答している。

この22施設で、主として治療を行なっている血友病患者数は、血友病A 971人、血友病B 187人、計1,158人であり、そのうち家庭治療を受けている者は、血友病A 113人、血友病B 10人、計123人であった(表1)。約11%の血友病患者が家庭治療を受けている。母集団の1,158人は、福井班の血友病患者全国実態調査(昭和56年)による生存患者数2,179人の約半数に相当している。また、家庭治療を行なっている11施設に限ると、患者数825人であり、121人15%に行なわれている。施設間では2%~41%と差が見られた。諸外国での家庭治療の普及率は、1980年WFH(世界血友病機構)の調査では、8%~61%、平均27%の患者が家庭治療を受けていた(表2)。西ドイツ・米国などは、家庭治療は血友病の包括医療の基本を支えるものとして重要視されている。

家庭治療により、血液製剤の使用量が増加したものが61%、減少したものが36%であった。家庭治療の利点として、早期治療による関節障害の防止が第一にあげられ、明るい性格、積極的社会生活への参加などが同様に指摘されている。一方、血液製剤の副作用に対する不安が逆に注目される。蕁麻疹8例、腰痛・咳・胸内苦悶2例などが報告された。

色々問題点のある治療法であるが、注意して行なえば、患者にとって利点の大きい方法でもあり、今後とも検討を続ける価値が大きいと思われる。

表1

INCIDENCE & POPULATION OF HEMOPHILIACS ON HOME CARE

	NUMBER OF HEMOPHILIACS	ON HOME CARE	INCIDENCE OF HOME CARE (%)
HEMOPHILIA A	971 (648)	113 (70)	12
HEMOPHILIA B	187 (124)	10 (3)	5
TOTAL	1,158 (772)	123 (73)	11

表2 INCIDENCE OF HOME CARE
(WFH, 1980)

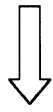
	Number of Hemophiliacs	On Home Care	%
AUSTRIA	365	41	11
AUSTRALIA	10	5	50
BELGIUM	25	10	40
BRAZIL	244	35	14
CANADA	604	228	38
COSTA RICA	90	24	27
FINLAND	183	45	25
FRANCE	1,344	334	25
WEST GERMANY	1,256	768	61
GREECE	310	24	8
ISRAEL	154	41	27
ITALY	752	297	39
NEW ZEALAND	85	37	12
NORWAY	300	37	12
SOUTH AFRICA	61	16	26
SPAIN	648	62	10
SWEDEN	810	135	17
SWITZERLAND	261	141	54
U. K.	3,475	683	20
U. S. A.	6,212	1,701	27
TOTAL	17,189	4,637	27

活性化 P P S B 製剤中の Active Principle の検討

帝京大学医学部 第一内科 安部 英
風間 睦美
木下 忠俊
田原千枝子

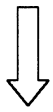
目 的

同種抗体（インヒビター）の発現した血友病A患者の治療剤として第Ⅷ因子迂回活性化製剤が開発されているが、その有効成分の本質、凝固機転上の役割は未だ明らかではない。本研究ではかかる製剤につき上記の問題を2, 3検討した。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



血友病家庭治療の実態と問題点を知る目的で、アンケート調査を行った。対象は・我が国における代表的血友病治療機関 25 施設であり、22 施設より解答が得られた。この 22 施設の内 11 施設が家庭治療を実施中であった。1 施設はかつて実施していたが現在は中止しており、2 施設は将来とも行なう予定はなく、残りの 8 施設は、現在は行なっていないが、将来行なう用意があると解答している。